

ハード・ディスクの組み込みから  
Linuxのインストールまで

# 玄箱を利用するにあたっての準備

ここではNAS組み立てキット「玄箱」を利用するにあたっての準備として、まず筐体<sup>きょうたい</sup>を開き、内部にハード・ディスクを組み込む。次に玄箱に付属する各種ソフトウェアをインストールして、必要な設定を行う。最後に、Vine LinuxやDebian Linuxのインストールの概要についても触れる。(編集部)

岸 哲夫

決して、玄箱の組み立てをなめてかかっちゃはいけません。自作パソコンを組み立てる程度にはややこしく、相応の器用さが要求されます。「説明書に書いてあるとおりに組み立てたのに、うまく動かない...」。このような事態に陥る前に、ぜひ本稿に目を通していただきたいと思います。

まず、玄箱の本体はもちろん必要です。そして、パッケージから取り出したばかりの玄箱にはハード・ディスク(HDD)が組み込まれていないので、別途、ATA/ATAPIインターフェースを備えるハード・ディスクを用意しなければなりません。そして、使いやすいドライブやラジオ・ベンチ。さらに、虫眼鏡(これは、筆者だけ?)。

## ハード・ディスクを組み込む

最初にハード・ディスクの設定を行います。

写真1を見てください。ジャンパ・ピンをマスタに設定しています。通常はケーブル・セレクトになっていますが、ここでは意図的にマスタに設定しました。

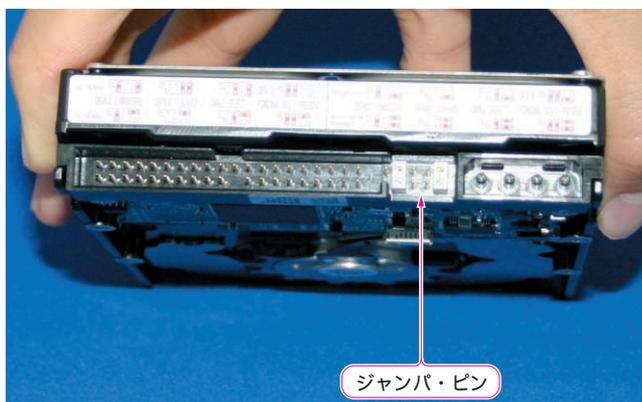


写真1 ハード・ディスクの設定

ハード・ディスクのジャンパ・ピンは、ついっかりと床に落とし、どこかに紛れたりすることがあるのですが(筆者だけ?)、なくしても大丈夫です。ハード・ディスクを置いている秋葉原などのパーツ・ショップに行けば、ジャンパ・ピンを売っています。

ちなみに、今回筆者が利用したハード・ディスクは、日立グローバルストレージテクノロジーズ(HGST)製の「Deskstar T7K250(HDT722516DLAT80)」です。これは、回転速度が7200rpm(rounds per minute)で、セクタ数が321,672,960の機種です。

ピンセットや指先でジャンパ・ピンをはめ込んでいる人をよく見かけますが、筆者がもっとも具合がいいと思うのは、ラジオ・ベンチを使う方法です。そっとつまんでください。力を入れるとジャンパ・ピンがつぶれます(笑)。

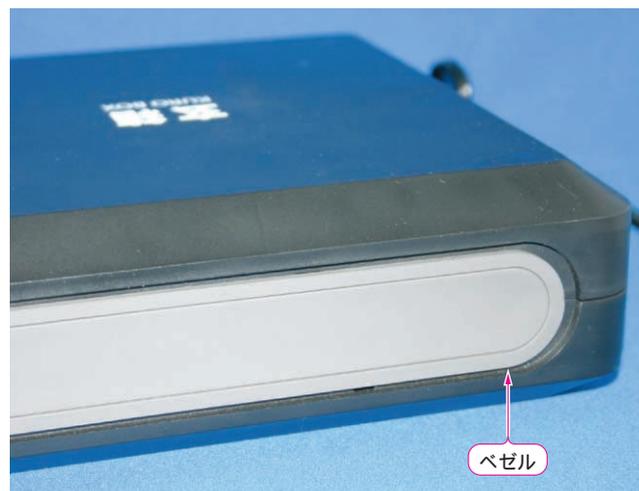


写真2 ベゼル



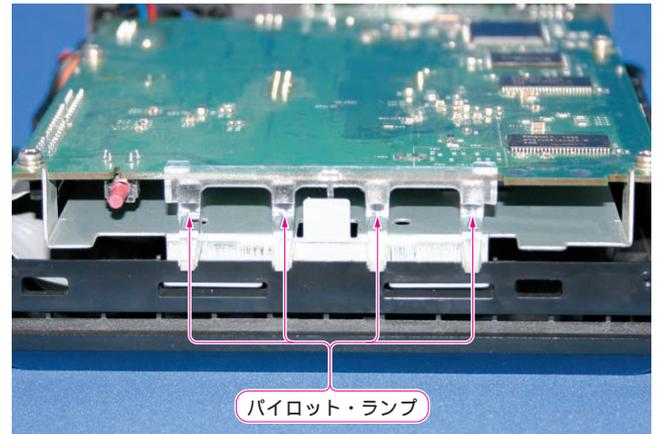
写真3 ベゼルを外した状態

では、玄箱を箱から出しましょう。説明書とインストール用 CD-ROM は大事なので、なくさないように注意してください。メーカの Web サイトなどからダウンロードすることはできません。

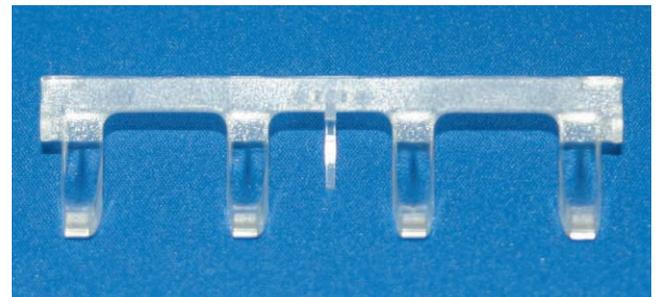
ケースを箱から出し、説明書に従ってベゼル(灰色のコ



写真4 ふたを開けたところ



(a) パイロット・ランプの場所



(b) 外れたパイロット・ランプ・レンズ

写真5 パイロット・ランプ・レンズを外す

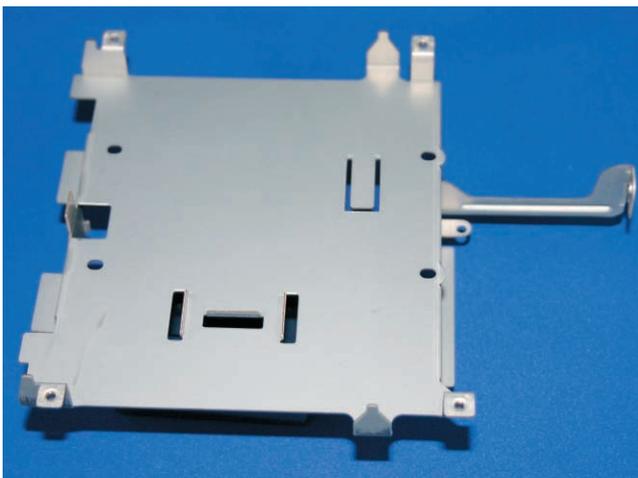


写真6 ハード・ディスクのブラケット

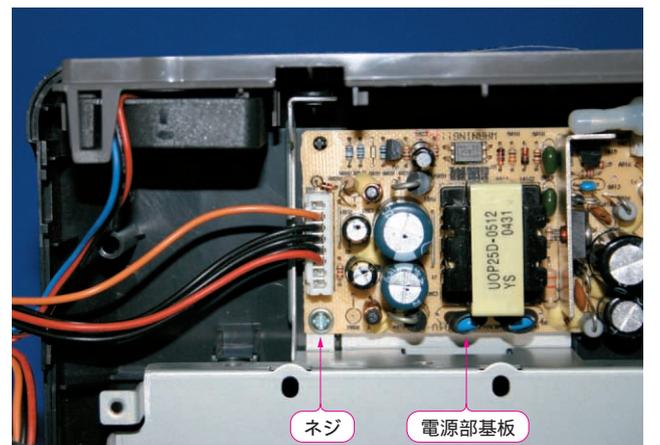


写真7 電源部基板のネジ